

日本株式投資の魅力 株価上昇局面における中小型株

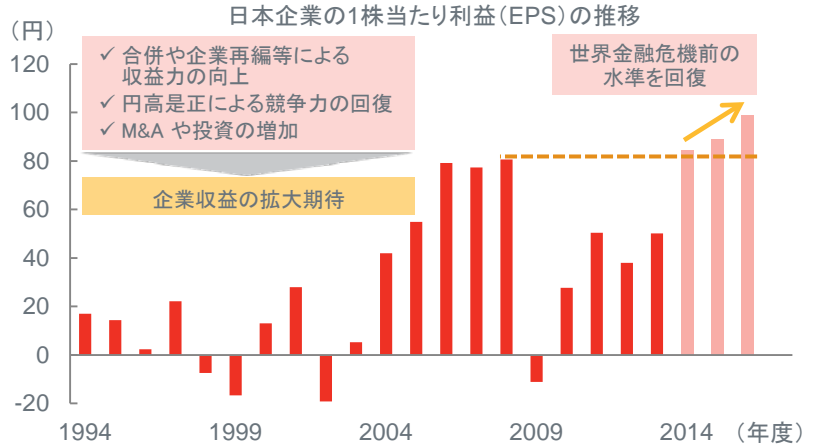
ご参考資料 2014年8月6日

日本経済はこれまで「失われた20年」と言われ、株式市場も低迷期を経験しました。しかし、日本企業はコスト削減や債務の圧縮等により高収益体質に生まれ変わりつつあります。また、アベノミクスをきっかけとして日本株式市場は持続可能な成長への期待から上昇を示しています。大きな変革期を迎えた日本株市場の中でも、注目される中小型株*投資についてご説明します。

魅力
その1

アベノミクス効果も後押し、 企業利益は過去最高となる見込み

- 日本企業は、これまでにコスト削減や債務の圧縮等により利益率を上げ、高い業績(利益)を実現可能な体質に変化しつつあります。また、アベノミクス効果への期待もあり昨年以降株価は大きく上昇しました。
- 日本企業の業績(1株当たり利益)は、世界金融危機前の水準を回復し、2014年度以降、過去最高水準を更新することが見込まれています。

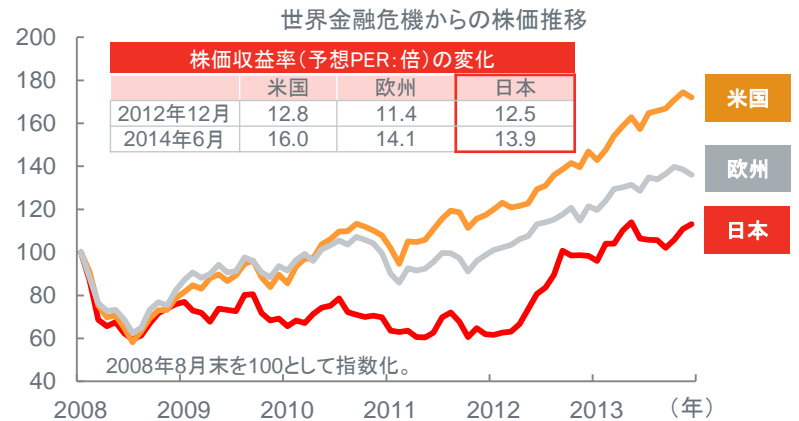


出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
東証株価指数(TOPIX)のEPSを使用。2014年度以降はBloombergのコンセンサス(予測値)。期間: 1994年度~2016年度

魅力
その2

日本株は欧米と比較して 魅力的なバリュエーション水準

- 日本企業は、潤沢な手元資金を維持した守りの経営から、増配・自社株買いや企業買収などの攻めの経営に転換し始め、今後さらなる企業価値の向上が期待されています。
- 日本株のバリュエーション(株価収益率)は、欧米と比較して割安な水準にあります。



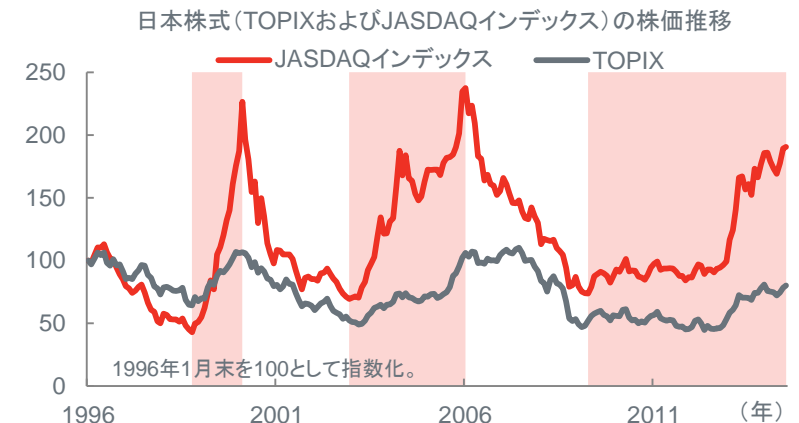
出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
日本: MSCI日本指数、米国: MSCI米国指数、欧州: MSCI欧州指数。全て税引前配当込み、現地通貨ベース。期間: 2008年8月末~2014年7月末。予想PERは本資料作成時点における最新の数値。

魅力
その3

中小型株*は、株価上昇局面において、 大型株をアウトパフォームする傾向も

- 一般的に事業構造がシンプルな中小型株市場の企業は、業績が株価に反映されやすい傾向があります。また、市場全体の株価上昇局面において、中小型株は大型株を上回って上昇する傾向があり、今後も株価上昇が期待される局面において魅力的な投資対象であると考えられます。
- 中小型株は、企業調査をするアナリスト数が大型株と比べて少なく、銘柄選択能力に優れた運用のプロに任せることに意義があると言えます。

*中小型株とは、一般的に、時価総額の大きい大型株以外の株式を指します。



出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
期間: 1996年1月末~2014年7月末。網掛け部分は、株価上昇局面。

魅力その4 世界最大規模の公的年金GPIFが国内株式等の投資比率を引上げる見込み*

- 世界最大規模の公的年金である年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は、現在50%以上となっている国内債券への投資比率を下げ、国内株式、外国株式、外国債券の比率を引上げることが見込まれています*。
- 海外の主な公的年金はポートフォリオの50%以上を株式に投資しており、GPIFにおいても中長期的には株式等への更なる比率引上げも期待されます。
*本資料作成時点において、上述の配分見直しは決定事項ではありません。また、GPIFが海外の公的年金と同じ配分になるとは限りません。

(ご参考)今後の主な経済スケジュール

日時	イベント
2014年9月頃	GPIFが資産配分見直しを発表予定
2014年12月頃	消費税率10%への引上げの可否を政府判断
2014年12月頃	2015年度 与党税制改正大綱とりまとめ

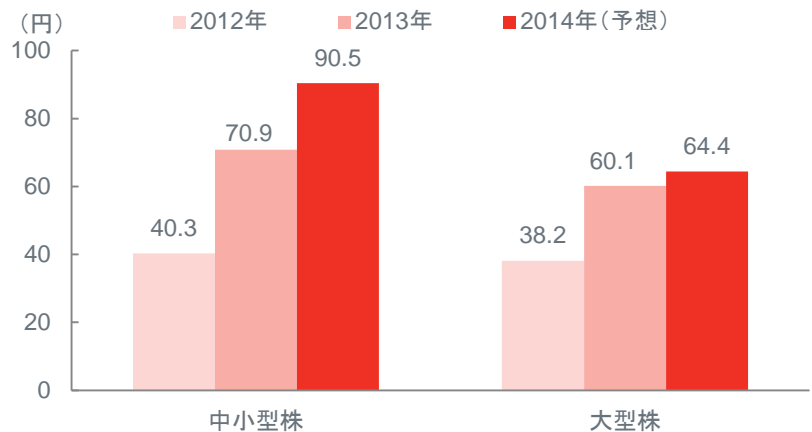
出所:各種情報によりイーストスプリング・インベストメンツが作成。

今後の見通し 足元の株価は割安 今後のさらなる上昇余地に期待

- 日本の株式市場は、銘柄選択次第では大きな投資成果を得ることができると考えています。
- 日本の中小型株市場は幅広い業種から構成されています。世界レベルのビジネスを展開し、国際競争力を有する企業が中小型株には多数あります。
- 日本経済は「失われた20年」と評されますが、実際に株式市場も下落基調が続きました。このため、証券会社や機関投資家が調査をしなくなった銘柄が多数生まれました。企業業績の改善を考慮すると、中小型株に魅力的な投資機会があると考えられます。

出所:イーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッド。
※上記の内容は2014年7月末現在のものであり、将来変更される可能性があります。

中小型株・大型株の1株当たり利益(EPS)の推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
中小型株: TOPIX SMALLとTOPIX MID 400、大型株: TOPIX CORE 30とTOPIX LARGE 70。それぞれの指数のEPSを2012年12月末、2013年12月末、2014年8月1日時点の指数時価総額で加重平均したもの。

イーストスプリング アジア最大級の資産運用会社 経験豊富な日本株式運用チーム

- イーストスプリング・インベストメンツの最終親会社グループは、アジアを中心に14のマーケットで生命保険および資産運用事業を行っています。
- イーストスプリング・インベストメンツ(グループ)は、“Asia Asset Management”の年次調査*において、アジア地域の個人資産運用額ランキングで2年連続第1位を獲得しました。
- イーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッドの日本株式運用チームは、外国人投資家の目線で銘柄を発掘します:①極端に割安な銘柄を抽出、②企業の長期的な収益力を見極め、投資する銘柄を厳選します。

*この調査は、アジア地域(除く日本、オーストラリア、ニュージーランド)において、アジア地域の資産運用に従事し、当該調査に応じた運用会社を対象として、2013年6月30日現在の個人資産運用額をランキングしたものです。出所:Asia Asset Management Fund Manager Survey 2013, September 2013

充実したアジアのネットワーク



(2014年7月末現在)

アジアで2年連続第1位

Asia Asset Management
EST. 1995
THE JOURNAL OF INVESTMENTS & PENSIONS



※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。